

活用例①

コロナ禍の影響やテレワーク勤務のため、集合研修を実施するのが難しい。
そこでeラーニングの研修サービスを契約し、従業員の能力アップを図りたい！



- 訓練コース：IT関係訓練受け放題サービス
- 訓練実施者：民間の教育訓練機関
- 訓練の内容：プログラミング言語やデータサイエンスなど、100種類以上のIT関係のeラーニングが契約期間（1年間）中、定額で、いつでもどこでも受け放題なサービス
- 訓練の進め方：全職員に1か月に1つ以上のeラーニングを受講することを義務付けている
- 契約料金：60,000円/1か月
- 受講者数：50人

人への投資促進コース（定額制訓練）の活用

()大企業

定額受け放題（サブスクリプション型）研修サービスを実施し、一定の要件を満たした場合、訓練経費の**60%（45%）**を助成するコース。なお、既に契約している定額受け放題研修サービスについては、令和4年4月1日以降に契約期間の初日があれば、計画届の提出日の1か月後の日から助成対象となる。

助成額：432,000円（経費助成：60,000円×12か月×60%＝432,000円）

活用例②



コロナ禍の影響により集合研修や外部研修が実施できなかったため、eラーニングの研修サービスを導入し、従業員のスキルアップを図りたい！

- 訓練コース：介護職員受け放題サービス
- 訓練実施者：民間の教育訓練機関
- 訓練の内容：介護の基本や認知症介護の基礎など、50種類以上の介護関係のeラーニングが契約期間（1年間）中、定額で、いつでもどこでも受け放題なサービス
- 訓練の進め方：全職員に1か月に2つ以上のeラーニングを受講することを義務付けている
- 契約料金：30,000円/1か月（50人まで）
- 受講者数：30人

人への投資促進コース（定額制訓練）の活用（活用例①を参照）

助成額：252,000円
（経費助成：42万円×60%＝25.2万円）

活用例③

物流データを分析し、保管や配送の計画・実行の最適化を行うため、システム構築やデータサイエンスを行える高度なデジタル人材を育成したい！



- 訓練コース：データサイエンティスト養成講座（第四次産業革命スキル習得講座）
- 訓練実施者：民間の教育訓練機関
- 訓練の内容：プログラミング言語を使ったデータサイエンスの手法を学ぶためのeラーニング
- 訓練の進め方：毎週1回eラーニングを視聴する日を設ける等、計画的に訓練を受講させた
- 標準学習時間：150時間
- 受講料：330,000円/1人
- 受講者数：2人

人への投資促進コース（高度デジタル人材訓練）の活用

()大企業

①ITSS（ITスキル標準）レベル4または3となる訓練（高度情報通信技術資格の取得のための課程や第四次産業革命スキル習得講座等）や、②情報科学や情報工学分野における大学での訓練（OFF-JT訓練時間数が10時間以上）を実施し、一定の要件を満たした場合、訓練経費の**75%（60%）**と1時間あたり**960円（480円）**を助成するコース。なお、高度情報通信技術資格の取得のための課程については、訓練終了後、対象労働者がITSSレベル4または3となる認定試験を受験することが要件になっている。

助成額495,000円
（経費助成：33万円×2人×75%＝49.5万円）

活用例④



今年度の採用のプログラマーを即戦力化するため、**6か月の研修期間**を設け、OFF-JTとOJTを組み合わせた訓練を実施したい！

- 訓練コース：新人プログラマー研修
- OFF-JT訓練実施者：民間の教育訓練機関 ● OJT指導者：社内従業員
- 訓練の内容：OFF-JTでプログラミング言語を取得させ、OJTでシステムの構築を行う訓練
- 訓練の実施期間：6か月 ● OFF-JT訓練時間数：120時間
- OJT訓練時間数：400時間 ● 受講料：440,000円/1人 ● 受講者数：5人

人への投資促進コース（情報技術分野認定実習併用職業訓練）の活用 ()大企業
正社員に対して、**教育訓練機関で行うOFF-JT**と企業内での**OJT**を効果的に組み合わせたIT分野の訓練（訓練の実施期間が**6か月以上2年以下**、総訓練時間数が**1年換算で850時間以上**、OJT実施割合が総訓練時間数の2割以上8割以下）を実施し、一定の要件を満たした場合、訓練経費の**60%（45%）**と1時間あたり**760円（380円）**と受講者**1人あたり20万円（11万円）**を助成するコース。なお、計画届とは別に、訓練開始日の30日前までに実施計画認定申請書の提出（**大臣認定の申請**）が必要。

助成額：2,776,000円

（経費助成：44万円×5人×60% = 132万円）
（賃金助成：120時間×5人×760円 = 45.6万円）
（OJT実施助成：20万円×5人 = 100万円）

活用例⑤



准看護師資格を持つ従業員が看護師になるため、自発的に専門学校に通うことになった。その従業員から費用がネックだという相談を受け、今後は、**労働者の自発的な訓練の受講**に対して、経費を100%補助することに決めた！

- 訓練コース：看護師養成課程 ● 訓練実施者：専門学校
- 訓練の内容：看護師資格を取得するための通信講座
- 標準学習期間：24か月 ● 受講料：800,000円/1人 ● 受講者数：1人

人への投資促進コース（自発的職業能力開発訓練）の活用 ()大企業
労働者が**自発的に**教育訓練（OFF-JT訓練時間数が**20時間以上**）を受講する場合に、事業主がその経費の**2分の1以上**を補助し、一定の要件を満たした場合、訓練経費（事業主負担）の**45%（45%）**を助成するコース。ただし、経費負担については、**就業規則等に規定した**制度に基づき、実施することが必要。

助成額：200,000円

（経費助成：80万円×100%×45% = 20万円（上限））

活用例⑥

これまでの人材育成はOJTを基本とし、社員の自発的な学びに任せていた。会社は、業務に関係する資格を受験する社員に、その受験料を補助するのみ。今回、この助成金の存在を知ったこともあり、社員のスキルを底上げするため、**応用情報技術者試験**の取得を目標に、社内研修を実施することにした！



- 訓練コース：応用情報技術者試験事前研修 ● 訓練実施者：社内講師（IT分野実務経験10年以上）
- 訓練の内容：応用情報技術者試験の取得を目標とする課程（訓練修了後、当該試験を受験）
- 訓練時間数：24時間（8時間×3日） ● 教科書代：2,500円/1人 ● 受験料：7,500円/1人 ● 受講者数：6人

人への投資促進コース（高度デジタル人材訓練）の活用（活用例②を参照）

助成額：183,200円

（経費助成：（2,500円+7,500円）×6人×75% = 4.5万円）
（賃金助成：24時間×6人×960円 = 13.82万円）

宮崎労働局助成金センター
（0985-62-3125）
【令和5年6月2日版】